

## 「みんなの学校」はいつでも、どこでもできる!

写真の本と映画により、じつに多くのことを学んだ。2016年12月3日に、林京香さんご家族や地域の人たちと名古屋市立大「さくら講堂」で上映会&シンポジウムを開催した。コーディネーターの大役もつとめた。映画の感動とともに、忘れられないイベントだった。

大阪に移り、リバティおおさかで映画「みんなの学校」上映会と大阪市立大空小学校の初代校長・木村泰子さんの講演会に参加した。木村先生のあついトークに耳を傾け、大空小学校の学びについて理解が深まった。

そして、岩波書店の雑誌『世界』11月号特集で、木村先生にお会いできた。木村先生らしい「みんなの学校」論があつく語られている。冒頭と最後を紹介したい。



2015年の春に、映画『みんなの学校』が公開されてから4年が過ぎました。この間、全国で2000件を超える自主上映が、今も続いています。この『みんなの学校』の上映とともに講演やセミナーをと、4年間で47都道府県すべての教育の現場に行かせていただきました。

学校現場を卒業してからのこの4年間は、私自身が学ばせていただくかけがえのない時間になっています。大阪市立大空小学校というパブリックの地域の学校で子どもや大人たちと学び合い、それぞれの自分が自分の学校をつくってきた「みんなの学校」の9年間とはまるで違う、教育の場が展開されていることも知りました。

「学校」という場で子どもが苦しみ、学校に行けなくなり、自分を責め、引きこもってしまう。一人ぼっちになってしまって、自らの命を絶つという取り返しのつかない現実にも直面してきました。あつてはならないことがこの日本社会の中で起きている。

すべての子どもは、大人の前では最たる弱者です。子どもは一人で生きていくことすらできないのです。働いてお金を稼ぐこともできず、大人に食べさせてもらえなくなれば命はつながらない。これが子どもです。どれだけ大人に暴力・暴言をはこうと、子どもは一人で生きていけない大人の前での弱者です。今、全国でいったい何人の子どもが「学校」に苦しみ、命まで絶ってしまっているか、この現実にも向き合う大人が一人でも増えていってほしい、こんな思いで今、私は学び続けています。

すべての人がともに生きる社会、それが「みんなの社会」です。そんな社会をつくる一人の大人の行動を子どもたちに伝え続けていきたいと願います。

(2019年10月18日)